

—受賞のよろこびと抱負—

血清アミノ酸測定による蛋白の栄養効果に関する研究

奈良女子大学講師
堀川蘭子

今年度の国内奨学金をいただきます。栄養を深く感謝いたし、今後一層研究に精進していきたいと存じて居ります。

私は数年来京都府立医大吉村寿人教授のご指導のもとに表記の如き研究を行つて居ります。蛋白又はアミノ酸を人体に与えた後の血清中のアミノ酸濃度を時間的に追跡することにより、摂取した蛋白やアミノ酸の栄養効果の判定を行つます。先ず良質(カゼイン)及び

低質(ツエイン)の蛋白質をカロリー源と共に経口的に被検者に与えた後、六時間に至るまでの静脈血を時間的に採取して、血清中のアミノ酸濃度を自動アミノ酸分析機にて測定いたしました。その結果蛋白摂取後間際に採取して、血清中のアミノ酸濃度の最高値より六時間値を減じた値に循環血清量を乗じて算出したアミノ酸量を、食後六時間に組織に沈着したアミノ酸量と仮定し、これによ

り、この配糖体(Genistein)と呼ばれる自身には抗溶

酸必要量のパターンとの関係には相関性は見られず、

またアミノ酸の混合比率の違いによる有意差も認められなかつたため、次に示す

アミノ酸沈着量によって判断を行いました。即ち食後

の血清アミノ酸濃度の最高値より六時間値を減じた値

アミノ酸量と仮定し、これによ

り、各種アミノ酸食の栄養効果を検討した結果、必須ア

ミノ酸を検討する事によ

りて、先に述べました研究目

標と全身循環血アミノ酸濃度との関係や肝臓処理アミ

ノ酸を検討する事によ

りて、先に述べました研究目

標と全身循環血アミノ酸濃度との関係や肝臓処理アミ

